

平成 29 年度 第 2 回 京都府立図書館協議会 資料

平成 29 年 11 月 16 日

1. 議事次第	… 1
2. 京都府立図書館協議会委員名簿	… 2
3. 第 1 回協議会 京都府立図書館協議会 議事要旨	… 3
4. 平成 29 年度の当館活動の概要	… 6
5. 平成 28 年度の評価及び平成 32 年度までの計画について	…別紙
6. 評価基準案作成作業グループの設置について	… 7
7. 評価基準案について	… 8

※ 参考資料

- 参考 1. 平成 29 年度広報（報道発表資料）等
- 参考 2. 平成 29 年度主要掲載記事等
- 参考 3. その他資料

平成 29 年度 第 2 回 京都府立図書館協議会

議 事 次 第

平成 29 年 11 月 16 日

1. 第 1 回協議会の議事録について
2. 平成 29 年度の当館活動の概要について
3. 平成 28 年度の評価及び平成 32 年度までの計画について
4. 新しい評価手法について
評価基準案作成作業グループの設置について
評価基準案について
5. 今後のスケジュールについて
6. その他

京都府立図書館協議会委員名簿

(敬称略)

氏名	所属・役職等
明致親吾	京都CSR推進協議会会長
小川雅史	京都府立嵯峨野高等学校長
桂まに子	京都女子大学講師
潮江宏三	京都岡崎魅力づくり推進協議会代表 (京都市美術館長)
内藤千鶴	京都府図書館等連絡協議会会長 (亀岡市立図書館長)
永田 紅	歌人
原田隆史(会長)	同志社大学大学院教授
松下亜樹子	京都新聞社論説委員
村川広美	舞鶴市立志楽小学校長
矢納佳実	京都府立大学生

平成 29 年度 第 1 回 京都府立図書館協議会 議事要旨

1 開催日時

平成 29 年 6 月 14 日（水）午後 3 時から 5 時まで

2 場所

京都府立図書館（京都市左京区岡崎成勝寺町）

3 出席者

明致親吾委員、小川雅史委員、桂まに子委員、潮江宏三委員、内藤千鶴委員、永田 紅委員、原田隆史委員、松下亜樹子委員、村川広美委員、矢納佳実委員

4 会議の内容

- (1) 協議会会長の選任について
- (2) 協議会の公開について
- (3) 平成 28 年度事業のまとめについて
- (4) 平成 29 年度事業計画について
- (5) 評価基準の考え方について
- (6) 今後のスケジュールについて
- (7) その他

5 協議事項（・：委員、→：事務局）

- (1) 協議会会長の選任について
○満場一致で原田委員が会長に選任された。また、会長により小川委員が会長職務代理者に選任され、満場一致で了承された。
- (2) 協議会の公開について
○協議の結果、傍聴要領を定め、会議の傍聴を認め、資料及び議事録を終了後に公開することとした。
- (3) 平成 28 年度事業のまとめについて
○事務局から概要を説明した。
○委員意見
・活動の成果は発信できているか。多彩かつ多大な活動を行っているが、職員の受け取りはどうか。
→館 HP を活用して成果報告している。業務が増えているのは事実であるが、企画ごとに関連する本の展示等も行うなど、全職員で協力して実施している。
・収書の方針について確認したい。また、展示は装丁の種類や活字・印刷に留意して、物体としての本に関する専門的な知識をもとに展開されるとより良い。
→収書は市販本を中心に、調査研究用資料と市町村・学校を支えるための資料、文化施設の資料等としている。展示についてはより良いものにしていきたい。
・託児サービスがあると、子どもを預けて調査をできる。また、目的以外の本に出合えるという図書館の利点を活かしてほしい。館内見学会もより周知を図ってほしい。
・今後の方向として、来館数を増やしたいのか、非来館型の市町村支援やインターネット

トサービス等の取組を充実したいのか、どちらに重点を置こうとしているのか。
→市町村支援は外せない一つの大きな柱。サービス計画でも第一に置いた。一方、来館型サービスも重要であり両方とも大切と考えている。しかし人口減少等の外的要件があるので、そのことも踏まえて、検討したい。

(4) 平成 29 年度事業計画について

○事務局から概要を説明した。

○委員意見

- ・平成 32 年度までの計画であることを前提として、平成 28 年度の実績・平成 29 年度の計画にも評価の記載がない項目がある。やっていることはなるべく全部出してほしい。
- 記載は重点的に行っている事項のみにした。そのため、継続して取組を行っているもので、記載がないものがある。次回以降、すべての活動に記載するよう検討したい。
- ・連絡協力車についての予算や人員は新規に獲得したものか。
- 連絡協力車については、従来の予算のなかでメリハリをつけて計上したもの。
- ・子どもへのサービスについては、市町村立の図書館とは役割分担をしている、という理解でよいか。
- 子どもへのサービスについては、直接のサービスは行わず、連絡協力車を活用して資料支援を行うこととしている。この点は現在の施設建設時からの方針。府立の役割があると考えるので、ご意見いただきながら考えたい。

(5) 評価基準の考え方について

○事務局から概要を説明した。

○委員意見

- ・サービス計画の 64 項目はもちろん、書かれていないすべての活動についても対象にする、という方向で考えたい。質をどう評価していくかが論点。
- ・数字は絶対的ではないが、出していないといけない。利用者の属性などより深いデータがほしい。それによって結果の分析ができ、努力の方向がわかる。
- ・基礎データが少なすぎるのが図書館共通の問題。意味のあるデータを取るように求めたい。例えば講演会等で毎回参加している方が多くいるのか、新しい方が多くいるのか、その辺のデータもほしい。
- ・平成 29 年度の事業計画は、すでに見通しのついているものが重点項目になっている印象がある。
- ・事業ごとに取ったアンケートの結果もまとめてほしい。
- ・SNS の活用状況について。アカウントのフォロー数なども基準になる。若者にとっては重要な要素。
- ・平成 29 年度のものでも企画段階であるものは事前に数値目標を持つべき。そうすると事後に評価ができる。さらに平成 32 年度まで見通しをもって計画してほしい。項目によっては、取り組まない、という判断でもよい。
- ・数値に限らず、目標設定と達成評価は重要。また数に限らない評価では、アウトカムの指標が重視されている。
- ・機関投資家に説明を行い、相手の反応を引き出すなど、対話でアウトカムを引っ張り出す手法がある。不特定多数の来館者に対してはむづかしい手法だが、市町村に対してはヒアリングを行うことで可能では。
- 市町村巡回の際によくお聞きしたい。また出せる数値やアンケート結果も準備したい。

なお利用者数はカウントしているが、例えば男女別、年齢別はカウントしていない。平成 32 年度までの計画についても予定として提示したい。

- ・先ほど議論もあったが、同じ項目でも、非来館サービス、来館サービス両方にかかるものがある、その場合には項目をわけると工夫して欲しい。
 - ・外部評価のコメントはどのように考えるか。
- 全項目にコメントいただくのは困難かと考える。次回までに検討して提示したい。
- ・サービスを受ける側の課題もある。そこが整理されると良い。数値が伸びないとき、図書館だけが要因ではなく相互関係がある場合もありえる。例えば学校においてサービスが活用されていない場合、学校と話し合いをした、ということだけでも進歩だと考える。
 - ・相互貸借でも各図書館がそれぞれ充実すれば、数値は少ない方がよいという考え方もできる。
 - ・数値以外の状況も提示されないと、外部評価はできない。目標とされている状況をそれぞれの項目ごとに記述していただきたい。
 - ・評価のためにデータを取る際に、知る権利や思想信条の自由に関わって、疑念を招かないように特段に配慮してもらいたい。
 - ・東日本大震災時に移動図書館をよりどころとした短歌があった。「京都に鴨川があつて良い」というような、よりどころ、安心感となる図書館を大事にしたい。

○会長意見

- ・数値のピックアップ、定性的なデータの取扱い、様々な層からのアンケート、図書館の特徴の活用、若者の利用の掘り起こし、などいろいろな意見が出た。また、一昨年度、府内全域を対象にしたアンケートを行った際のデータも興味深い。これらを事務局で検討し、委員の方に意見を聞いていただきたい。その上で、事務局と検討して、評価手法については、たたき台を作らせていただいて次回議論したい。その方向で会長に一任いただく。

(6) 今後のスケジュールについて

- 事務局から概要を説明した。

(7) その他

- 事務局から、資料の切り取りについて、マイナンバーの図書館利用について報告。

平成29年度の当館活動の概要

日付	事項	広報
4月1日(土)	京都教育大学附属図書館と相互貸借開始	
4月23日(金)	子ども読書本のしおりコンテスト募集開始	○
5月17日(水)	匿名の手紙と現金20万円が当館ポストに投げ込まれる	○
6月10日(土)	京都岡崎音楽祭連携夜間コンサート「CALM -NIGHT LIBRARY LIVE-」 117名参加	
5月28日(日)	連続講座「仏教の培う豊かな日本文化」 71名参加	○
6月1日(木)	福知山公立大学メディアセンターと相互貸借試行開始	
6月14日(水)	第1回図書館協議会	
6月23日(金)	展示「京都大学総合博物館企画展「標本からみる京都大学動物学のはじまり」関連図書展示」(~9/27) 京都大学総合博物館との初のコラボレーション	○
6月23日(金)	展示「ジャズで百冊」開始(~9/27)	○
6月25日(日)	連続講座「日本人はいつヨーロッパを知ったか？」 85名参加	○
7月23日(日)	連続講座「和食の魅力を発酵食から探る」 79名参加	○
7月28日(金)	府「お茶の京都」キャンペーン連動展示「お茶の京都」(~9/27)	○
7月29日(土)	活用講座「「非水創作図案集」と広告デザイン」講演とWS 21名参加 細見美術館展覧会「杉浦非水-モダンデザインの先駆者-」関連企画	○
8月1日(火)	統計グラフコンクール(政策統計課主催) 展示(~8/31)	
8月2日(水)	政策金融公庫連携「起業相談会」開催(以降、毎月第1水曜に実施)	○
8月5日(土)	講座「見えづらい人のための視覚補助具の使い方」 11名参加	○
8月11日(祝)	京の七夕連動企画「音の図書館」 府立高校吹奏楽部(北稜高校)による野外演奏 参加約200名 木琴奏者:通崎睦美氏らによる館内夜間コンサート 参加83名	○
8月16日(水)	館内見学会 参加41名(新聞報道の結果、激増)	
9月1日(金)	佛教大学附属図書館と相互貸借試行開始	○
9月13日(水)	府立大学ケースメソッドキャリア研修発表会(4月以降、実地調査等を実施)	
9月16日(土)	岡崎ときあかりプロジェクトマッピングコンペに協賛 「府立図書館賞」受賞作品をエントランスで上映(9/29~10/15)	
9月20日(水)	館内見学会 参加44名(開始以来最高の参加者)	
9月24日(日)	連続講座「大政奉還とは何か」 110名参加	○
9月29日(金)	展示「大政奉還」(~12/27)・展示「茶の本The Books of Tea」(~12/27)	○
10月1日(日)	京都大学附属図書館と相互貸借本格実施(H28/7から試行)	
10月1日(日)	政策金融公庫連携「クラウドファンディング活用セミナー」講演と面談 31名参加	○
10月5日(木)	ナレッジベーストークイベント(夜間) 27名参加	
10月7日(土)	ナレッジベースイベント「時刻表から見る日本の近代化」 25名参加	
10月9日(祝)	活用講座「武田五一と京都府立図書館」講演と見学 53名参加	○
10月29日(日)	連続講座「茶に遊び、茶から学ぶ」 53名参加(台風) 木津高校茶業専攻の生徒たちが栽培・製造した煎茶を参加者等に提供	○
11月5日(日)	子ども読書本のしおりコンテスト表彰式(応募総数9,692通)	○
11月9日(木)	「子どもへの読書活動支援事業」発表 近畿府県立図書館では初。子ども支援を行っている団体への貸出実施(6団体)	○
11月10日(金)	京都市図書館との相互返却の試行開始 府立図書館の資料の返却が京都市の図書館で行えるように	○
11月26日(日)	連続講座「漢字のしくみとあゆみ」(予定)	○
12月1日(金)	マイナンバーカードの図書館利用に対応(予定)	

評価基準案作成作業グループの設置について

平成 29 年 11 月 16 日

京都府立図書館

京都府立図書館協議会（以下「協議会」という。）の目的である京都府立図書館の運営を適正に評価するための評価基準案を効率的に作成するため、京都府立図書館に「評価基準案作成作業グループ」（以下「作業グループ」という。）を以下のとおり設置する。

1. 構成

作業グループの構成員は、協議会の意見を参考にして京都府立図書館長（以下「館長」という。）が5名を限度に指名する。作業グループの長は館長が指名する。

2. 議事及び資料の報告

作業グループの議事概要及び資料は、館長を通じて協議会に報告する。

3. 委任

前各項に掲げるもののほか、作業グループの運営に関し必要な事項は、館長が定める。

京都府立図書館協議会

評価基準と評価の考え方（試案）

○サービス計画で掲げている 20 の項目と、さらに必要な新項目をルーブリック方式で評価する。そのため、評価の対象項目は 20 以上になる場合がある。

○項目の対象項目ごとに、関連の数値を含めた実際の活動を勘案し、事前に決定された評価基準のどこに該当しているかを判断する。評価グレードには 5～1 の評点が付されている。

○各項目自体に、2～0.5 の重みづけを行い、評点を乗じる。該年度の重点項目は 2、当該年度に力点を置かない項目は 0.5 などとする。

例) 項目 1 が評点 [4] × 重みづけ [2.0] の場合、8 ポイント (10 ポイントが満点) となる

○満点が [100] となるよう、最後に所定の係数をかける。

例) 積み上げた満点が [120] となった場合、係数は [0.83] となる。

粗点が [92] とすると、評点は、粗点 [92] × 係数 [0.83] = [76.3] となる。

○評価は、①図書館による内部評価、②図書館協議会による外部評価、③外部評価により内部評価を修正し確定、という手順で行う。

1 府内の各図書館とのネットワークの強化（重み 1.0）

府立図書館は、京都府内の公立・大学・学校などの各図書館のハブとして、府内各図書館が所蔵している資料を一括して検索できる京都府図書館総合目録ネットワークシステム（K-Libnet）を管理・運用するとともに、資料と情報を運ぶ連絡協力車をシステムと連動させて効率的に運行しています。

今後も、総合目録ネットワークシステム（K-Libnet）を着実に運用するとともに、大学・企業などとの共同研究等を通じて利便性の向上を図り、より効率的に資料と情報を府内全域で共有できるように工夫します。

5	K-Libnet の確実な運用と加盟機関の拡大、府内各大学との相互貸借の促進、共同研究等を通じたシステム改善と利便性の向上、府内の図書館との物流改善、職員の府内各機関巡回の維持・拡充などを達成し、十分な効果が出た。
4	K-Libnet の確実な運用と加盟機関の拡大、府内各大学との相互貸借の促進、府内の図書館との物流改善、職員の内各機関巡回の維持・拡充などを達成し、十分な効果が出た。
3	K-Libnet の確実な運用と加盟機関の拡大、府内各大学との相互貸借の促進、府内の図書館との物流改善、職員の内各機関巡回の維持・拡充などを達成した。
2	K-Libnet の確実な運用は行えなかったが、加盟機関の拡大など、新たなアクションを行うことができなかった。
1	K-Libnet の確実な運用が行えなかった。

2 市町村立図書館等への支援（重み 1.0）

府民に身近な市町村立図書館等への支援を行うことによって、府立図書館は府民サービスの向上を達成することができ
ます。

府と市町村の役割分担に基づいた資料を充実させ、市町村立図書館の支援を行います。また、図書館運営にかかる情報を積極的に収集し提供するとともに、社会や技術の最新の動向を踏まえた研修を実施します。

さらに、市町村立図書館のレファレンス（※）機能充実に向けて、一層の助言や事例の蓄積、研修等を行い、図書館にか
かる多様な展示やイベントの協働実施にも積極的に取り組みます。

5	市町村立図書館の支援を資料と情報を充実させながら行い、最新の動向を踏まえた研修を実施しつつ、レファレンス機能充実に向けても研修等を行い、多様な展示やイベントの協働実施にも積極的に取り組み、十分な効果が出た。
4	市町村立図書館の支援を資料と情報を充実させながら行い、最新の動向を踏まえた研修を実施しつつ、レファレンス機能充実に向けても研修等を行い、多様な展示やイベントの協働実施にも積極的に取り組みます。
3	市町村立図書館の支援を資料と情報を充実させながら行い、研修を実施しつつ、レファレンス機能充実に向けても研修等を行い、多様な展示やイベントの協働実施にも積極的に取り組みます。
2	市町村立図書館の支援を行い、研修を実施しつつ、レファレンス機能充実に向けても研修等を行った。
1	市町村立図書館の支援を行った。

3 学校支援の充実（重み 1.0）

子どもたちが、生涯にわたり、自ら調べ、課題を解決する力を身につけるためには、早い段階から各種の図書館等を活用して的確に情報を収集する習慣をつけることが有効です。

そのため、府立図書館では、児童・生徒の来館型調べ学習や学生の調査研究を積極的に受け入れるとともに、学校図書館運営のための支援を充実します。また、各学校に資料をまとめて提供している学校支援セット等についても、より活用していただけるよう仕組みを改善します。特別支援学校についても、資料や情報の提供など支援を強化します。

5	児童・生徒の調べ学習や学生の調査研究を積極的に受け入れつつ、学校図書館のために、学校支援セット等の資料の充実と提供方法等の改善を行うなど支援を充実し、さらに特別支援学校への資料や情報提供などの支援を強化し、十分な効果が出た。
4	児童・生徒の調べ学習や学生の調査研究を受け入れつつ、学校図書館のために、学校支援セット等の資料の充実と提供方法等の改善を行うなど支援を行い、さらに特別支援学校への資料や情報提供などの支援を強化した。
3	児童・生徒の調べ学習や学生の調査研究を受け入れつつ、学校図書館のために、学校支援セット等の資料の充実を行うなど支援を行い、さらに特別支援学校への支援を強化した。
2	学校図書館のために、学校支援セット等の資料の充実を行うなど支援を行い、さらに特別支援学校への支援を行った。
1	学校図書館のために、学校支援セット等の資料の充実を行うなど支援を行った。

4 子ども読書活動の支援（重み 1.0）

「子どもの読書活動の推進に関する法律」（平成13年12月12日法律第154号）に、子どもの読書活動を推進することは地方自治体の責務として明示されています。そのため、府立図書館では、児童サービス等に関する情報を、あらかじめ集積・発信することとします。

経常的な情報収集と発信に加え、従来から実施している「子ども読書本のしおりコンテスト」等の事業を推進するとともに、子ども読書活動に関するワークショップや、多様な講師を招聘した研修等を実施します。

5	児童サービス等に関する情報の集積と発信を積極的に行い、「子ども読書本のしおりコンテスト」等の事業を推進し、一方で子ども読書活動に関するワークショップ等や多様な講師を招聘した研修を多数実施した。
4	児童サービス等に関する情報の集積と発信を行い、「子ども読書本のしおりコンテスト」等の事業を推進し、一方で子ども読書活動に関するワークショップ等や多様な講師を招聘した研修を実施した。
3	児童サービス等に関する情報の集積と発信を行い、「子ども読書本のしおりコンテスト」等の事業を推進し、一方で多様な講師を招聘した研修を実施した。
2	「子ども読書本のしおりコンテスト」等の事業を推進し、一方で多様な講師を招聘した研修を実施した。
1	「子ども読書本のしおりコンテスト」等の事業を推進した。

5 多様な資料の収集・整理・提供（重み 1.0）

図書館の根幹は、取り扱っている資料と情報です。そのため、府立図書館資料収集方針（平成28年3月改正）に基づいて、多様な形態の資料を積極的に収集します。

また、利用者が的確に資料や情報を発見できるよう、目録データを着実に作成・蓄積するとともに、所蔵資料数に比して限られている開架スペースに、利用頻度や資料構成を考えた配架を行うよう取り組みます。

5	収集方針にそって多様な形態の資料を積極的に収集するとともに、利用者が的確に資料や情報を発見できるよう、目録データを着実に作成・蓄積し、利用頻度や資料構成を考えた配架を行うよう取り組んだ。
4	収集方針にそって多様な形態の資料を収集するとともに、利用者が資料や情報を発見できるよう、目録データを作成・蓄積し、利用頻度や資料構成を考えた配架を行うよう取り組んだ。
3	収集方針にそって多様な形態の資料を収集するとともに、利用者が資料や情報を発見できるよう、目録データを作成し、資料構成を考えた配架を行うよう取り組んだ。
2	収集方針にそって多様な形態の資料を収集するとともに、目録データを作成・蓄積し、資料構成を考えた配架を行うよう取り組んだ。
1	収集方針にそって多様な形態の資料を収集するとともに、目録データを作成・蓄積し、配架を行った。